

平成24年度 第3回

社会教育委員の会議

○日 時 平成24年11月20日（火）
午後2時00分～

○会 場 人材かがやきセンター 研修室

宇都宮市教育委員会

会 議 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 報告事項

第54回全国社会教育研究大会山梨大会の参加報告について 【資料1】

(2) 協議事項

① 「(仮称)第2次地域教育推進計画」の中間取りまとめについて 【資料2】

- ・ 施策等の考え方について
- ・ 中間取りまとめの内容について

② 「(仮称)宇都宮市読書活動推進計画(第2次図書館機能・サービス向上計画, 第3次子ども読書活動推進計画)」の骨子(案)について

【資料3】

(3) その他

社会総ぐるみによる人づくりの提言について 【資料4】

3 そ の 他

4 閉 会

宇都宮市社会教育委員名簿

任期 平成23年7月1日～平成25年6月30日

No.	氏 名	区 分	備 考
1	矢古宇好道	学校教育関係者	栃木県高等学校長会 宇都宮支部
2	鎌田耕介	学校教育関係者	宇都宮市中学校長会副会長
3	村上雅之	学校教育関係者	宇都宮市小学校長会長
4	石嶋勇	学校教育関係者	宇都宮地区幼稚園連合会顧問
5	山本和紀	社会教育関係者	宇都宮青年会議所理事長
6	楠渚澄江	社会教育関係者	宇都宮市地域婦人会連絡協議会長
7	福田仁	社会教育関係者	宇都宮市体育協会副会長
8	高崎敬三	社会教育関係者	宇都宮市文化協会理事
9	塚田栄一	社会教育関係者	宇都宮市子ども会連合会顧問
10	菅原一浩	社会教育関係者	宇都宮市PTA連合会長
11	吉田治	社会教育関係者	地域まちづくり組織連絡会議代表
12	勝田健一	社会教育関係者	宇都宮市青少年指導員会長
13	磐井怜子	社会教育関係者	宇都宮市民間保育園園長会副会長
14	伊藤三千代	社会教育関係者	晃宝宮っ子ステーションコーディネーター
15	石澤明子	家庭教育関係者	親学習プログラム指導者
◎	16 廣瀬隆人	学識経験者	宇都宮大学教授
	17 河田隆	学識経験者	宇都宮共和大学教授
	18 石川美和	学識経験者	宇都宮大学留学生センター非常勤講師
○	19 木村由美子	学識経験者	市議会議員
	20 齋藤幸子	学識経験者	市議会議員

- ◎ 委員長
○ 副委員長

第54回

全国社会教育研究大会

山梨大会 資料(抜粋)

大会開催要項

開催趣旨

東日本大震災は、国難とまで言われるほど大規模な被害をもたらしました。被災された皆様の、苦難の中であって前向きに進んでいこうとしている姿、地域住民自ら復興に取り組む姿、また、被災された方々をさまざまな形で支援していこうとする人々の姿は人と人とのつながりを強固にし、未曾有の困難の中にありながら、私達の社会が持っている可能性や大きな希望を感じ取ることができました。

一方で、都市化・過疎化・高齢化・情報化の波は、地域住民同士の関係を希薄にし、地域の衰退と共に社会教育もまた活力を失い、社会教育で地域の活力を再生し、地域の教育力を再生することがいっそう難しい課題となっています。

しかし、現代社会で希薄になっている人間関係を見直し、人間関係の中で息づく信頼の感情がしっかりと引き継がれ、そして豊かである「持続可能な社会」を構築することによって、強く活気のある地域社会が創造できると信じます。地域住民同士が、一層信頼関係を築き、地域に対する誇りや愛情を持ち、地域のよさを次世代に引き継いでいく、自立した地域社会を形成すること、教育・子育て・まちづくり・福祉・介護等多様な課題に対して、地域住民の様々な体験や知識が共有・継続され、さらに新たな創造・工夫が生み出される、いわゆる「知の循環型社会」「持続可能な社会」を構築することが大切です。

地域に活力を与えるために、今、社会教育にできることは何か。それは私たち自身の手で強い絆をつくり未来に残すことではないでしょうか。

そこで本大会では、「地域の絆を深め、活力を生む新しい社会教育を創る」の研究主題のもと、全国の社会教育委員等、社会教育関係者が一堂に会し、各地域における社会教育活動の実践や研究成果について情報を交換し交流を深め、これからの社会教育のあるべき姿、その実現の方策について研究協議を行うことを趣旨といたします。

大会スローガン

「つどえ 富士の国やまなしへ 語ろう 日本の今 これから」

研究主題

地域の絆を深め 活力を生む新しい社会教育を創る

期 日

平成 24 年 10 月 24 日 (水) ~ 26 日 (金)

会 場

- <全体会> 甲府市総合市民会館
<分科会> 甲府市総合市民会館 かいてらす (山梨県地場産業センター)
山梨県立文学館

参 加 者

都道府県・政令指定都市・区市町村の社会教育委員及び社会教育関係者
生涯学習・社会教育に関心のある方

主 催

一般社団法人全国社会教育委員連合 関東甲信越静社会教育委員連絡協議会
第 54 回全国社会教育研究大会山梨大会実行委員会
山梨県社会教育委員連絡協議会 山梨県教育委員会 甲府市教育委員会

後 援 (順不同)

文部科学省 関東甲信越静各県教育委員会 山梨県 甲府市 山梨県市長会
山梨県町村会 山梨県市町村教育委員会連合会 山梨県公立小中学校長会
山梨県高等学校長協会 山梨県 P T A 協議会 山梨県高等学校 P T A 連合会
山梨県国公立幼稚園 P T A 連絡協議会
特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会 公益財団法人やまなし文化学習協会
山梨県国際交流協会 山梨県女性団体協議会
山梨県子どもクラブ指導者連絡協議会 山梨県連合婦人会 山梨県社会福祉協議会
富士の国シニア山梨 (社) 山梨県老人クラブ連合会 山梨県社会教育振興会
山梨県公民館連絡協議会 山梨県社会教育放送研究会
(社) 青少年育成山梨県民会議 山梨県商工会連合会 甲府商工会議所
山梨日日新聞社 読売新聞甲府支局 時事通信社甲府支局 共同通信社甲府支局
日本放送協会甲府放送局 山梨放送 テレビ山梨 テレビ朝日甲府支局

大会日程・内容

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
第1日目 10/24 (水)								社教連理事会		
第2日目 10/25 (木)	受付	社教連総会		受付	アトラクション	開会行事	記念講演	シンポジウム	閉会行事	分科会打合せ会 情報交換会
第3日目 10/26 (金)	受付	分科会別研修 (分科会ごとに解散)								

大会内容

10月24日(水)

一般社団法人全国社会教育委員連合理事会 15:00～17:00

会場 <アーバンヴィラ古名屋ホテル>

10月25日(木)

一般社団法人全国社会教育委員連合総会 9:30～11:30

会場 <甲府市総合市民会館大会議室>

全体会

司会 堀内詠子 (NPO法人 Mom 理事長)

※「NPO法人Mom」- 障害者を受け入れやすい地域社会づくりを目指して、朗読や語りなど、障害を持つ人やその家族などの思いを伝え、さまざまな地域活動に参加しています。

1 アトラクション 12:30～12:50

【甲斐◇風林火山】

2 開会行事 13:00～13:50

・ 開会のことば 第54回全国社会教育研究大会山梨大会実行委員会副委員長 塩崎 洋子

・ 国歌斉唱

・ 主催者あいさつ 一般社団法人全国社会教育委員連合会長 大橋 謙 策

第54回全国社会教育研究大会山梨大会実行委員会委員長 宇野 五千雄

- ・ 祝 辞 文部科学省
山梨県知事 横内 正 明
山梨県議会議員 浅川 力 三
 - ・ 歓迎の言葉 甲府市長 宮島 雅 展
 - ・ 表 彰 一般社団法人全国社会教育委員連合表彰
 - ・ 閉 会
- 3 記念講演 14:00～15:10
- 演 題 「21世紀の日本と地域社会」
- 講 師 日本経済新聞社編集委員 藤 卷 秀 樹
- 4 シンポジウム 15:20～16:50
- テーマ「今求められるコミュニティ形成と社会教育のあり方」
- ◇ コーディネーター
山梨大学大学院教授・山梨県社会教育委員 栗 田 真 司
 - ◇ シンポジスト
特定非営利活動法人えがおつなげて代表理事 曾根原 久司
特定非営利活動法人フードバンク山梨理事長 米山 けい子
特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会事務局長 岸 本 千 恵
- 5 全体会・閉会行事 17:00～17:10
- ・ 次期開催地挨拶 三重県社会教育委員連絡協議会会長 湯 浅 祥 司
栃木県社会教育委員協議会会長 石 岡 佐 平
 - ・ 閉会の言葉 第54回全国社会教育研究大会山梨大会実行委員会副委員長 三 枝 博

10月26日(金)

- 6 分科会別研修 9:30～12:00
- *会場：総合市民会館 (第1・第3分科会)
 - かいてらす (第4分科会)
 - 県立文学館 (第2・第5分科会)

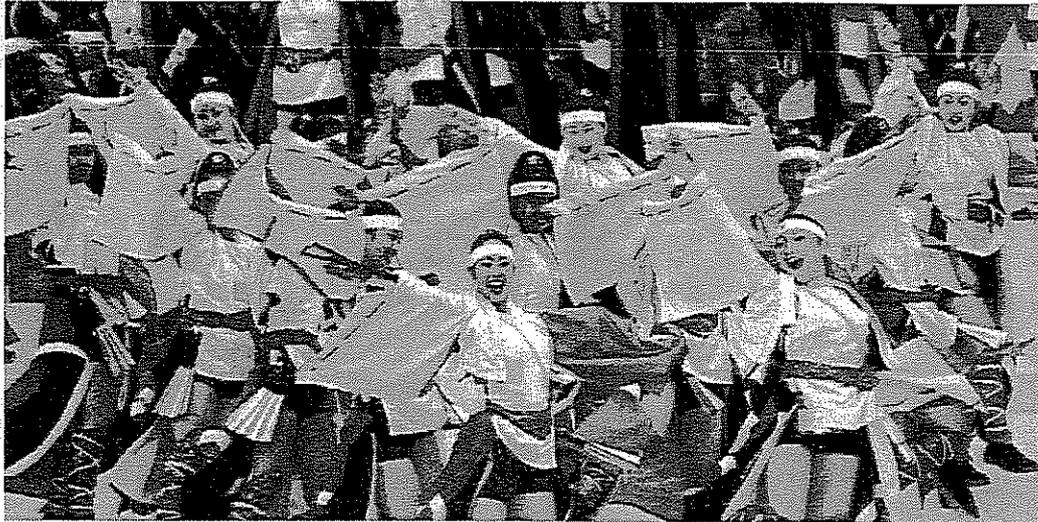
	分 科 会 名	テ ー マ
1	家庭教育支援	社会全体で子どもを育むための効果的な支援のあり方
2	社会教育と学校教育の協働	これからの地域と学校の連携のあり方
3	地域の教育力向上	活気ある地域社会の創造を目指し主体的に取り組む姿の醸成
4	社会教育委員の役割	地域の絆づくりにおける社会教育委員の役割
5	社会教育施設のあり方	活気ある地域社会を創造する拠点としての社会教育施設のあり方

分科会別構成一覽

分科会・会場		主な研究・討議の視点	事例提供		スーパーバイザー
第1分科会	家庭教育支援	テーマ 「社会全体で子どもを育むための効果的な支援のあり方」	山梨県 山梨市 山梨市	NPO法人「HAPPY SPACE ゆうゆうゆう」理事長 星合深妃	山梨県県立大学 人間福祉学部 人間形成学科教授
	甲府市総合市民会館 大会議室	○家族の絆を深め、家庭の教育 力の向上に資する支援活動 ○地域ぐるみの子育て支援体制 とネットワークづくり	愛媛県 媛洲市	家庭教育支援チーム“そ よ風”リーダー 山口和恵	池田政子
第2分科会	社会教育と 学校教育の協働	テーマ 「これからの地域と学校の連携 のあり方」	群馬県 川場村	川場村社会教育委員連絡 協議会 会長 新木義雄	特定非営利活動法人 スクールアドバイス ネットワーク理事長
	県立文学館講堂	○青少年の健全育成 ○豊かな体験活動 ○社会全体で子どもを育むため の効果的な支援のあり方	佐賀県 佐賀市	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サ ポート・フェイス 代表理事 谷口仁史	生重幸恵
第3分科会	地域の教育力向上	テーマ 「活気のある地域社会の創造を 目指し主体的に取り組む姿の醸 成」	千葉県 一宮町	一宮町体育協会 企画広 報部長 荒木厚雅	聖徳大学人文学部 生涯教育文化学科 准教授
	甲府市総合市民会館 芸術ホール	○地域の教育資源を生かし、つ どい学ぶ場の創造 ○地域コミュニティの再構築の ためのつながりの仕組みづく り ○交流や活動の場・機会の創造 ○青少年の社会性や自立心をは ぐくむための支援活動	山形県 南陽市	南陽市教育委員会 社会教育課社会教育係長 嶋貫憲仁	齊藤ゆか
第4分科会	社会教育委員の役割	テーマ 「地域の絆づくりにおける社会 教育委員の役割」	神奈川県 川崎市	川崎市社会教育委員会議 議長 大下勝巳	山梨学院大学 生涯学習センター 副センター長
	かいてらす 大ホール	○地域を見直し、良さを掘り起 こす活動の推進 ○自立した地域社会づくりのた めの社会教育活動の推進	新潟県 上越市	上越市社会教育委員長 秋山三枝子	青山貴子
第5分科会	社会教育施設 のあり方	テーマ 「活気のある地域社会を創造す る拠点としての社会教育施設の あり方」	青森県 弘前市	特定非営利活動法人 あおもり NPO サポート センター 理事長 田中弘子	山梨県公民館 連絡協議会会長
	県立文学館 研修室	○地域課題に答えるための学習 拠点となる社会教育施設のあ り方	山口県 長門市	長門市油谷中央公民館 館長 森田和康	堀内邦満

アトラクション

甲斐◇風林火山



◆プロフィール

「甲斐◇風林火山」は、平成14年2月に上野原市を拠点として活動する「じょいそーらんグループ」の各支部より集まった約80名で結成した「よさこい鳴子踊り」の演舞団体です。披露するその演舞を「甲斐の国 武田踊り」と称し、甲斐の戦国武将で名高い武田信玄公の甲州軍団出陣をイメージして踊っており、『風』『林』『火』『山』の文字を背に、力強く優美な演舞を通して、甲斐の国山梨を全国各地にPRしています。

構成メンバーは、小学生から社会人まで幅広く、居住地も山梨・神奈川・東京と広範囲にわたっています。

◆活動履歴

信玄公忌奉納演舞（恵林寺） 武田神社奉納演舞 諏訪大社・川中島古戦場奉納演舞
「甲斐の国 風林火山博」 オープニングセレモニー演舞
NHK「おはよう日本」出演 テレビ朝日「題名のない音楽会」出演
新潟雪しか祭り「震災復興祈願祭」で演舞 宮城県石巻市への支援活動・演舞

◆主な受賞歴

高知2007よさこい全国大会 優秀賞「艶」
第8回、第9回 武田節全国音楽祭 in やまなし武田節FVC グランプリ
第18回 YOSAKOI ソーラン祭り 敢闘賞
第11回・第12回東京よさこい 大賞 東京都知事賞（殿堂入り）
第21回 YOSAKOI ソーラン祭り 優秀賞（ベスト10ファイナルステージ）
原宿表参道元氣祭りスーパーよさこい2012入賞（高知県知事賞）

記念講演

演題：「21世紀の日本と地域社会」

日本経済新聞社編集委員

ふじ まき ひで き
藤 巻 秀 樹

《略 歴》

昭和30 (1955) 年 山梨県大月市生まれ
昭和48 (1973) 年3月
山梨県立甲府第一高校卒業
昭和54 (1979) 年3月
東京大学文学部仏文科卒業
同年4月 日本経済新聞社入社
外報部、大阪経済部、同社会部、
国際部、パリ支局、国際部次長、
経済解説部次長、神戸支局長など
を経て2006年から編集委員。



《主な活動歴・フィールド》

欧州を中心に長く国際報道に関わった後、国際政治・経済の知識を活かし、人口減少社会、NPO、コミュニティービジネス、移民・多文化共生社会など日本の新しい経済社会トレンドを取材、2009年に日系ブラジル人集住地域の愛知県豊田市保見団地、2010年にコリアンタウンの東京・新大久保、2011年に外国人妻が多い新潟県南魚沼市などに住み込み取材をし、企画記事を長期連載した。

《主な著書》

「シラクのフランス」	日本経済新聞社 1996年
「現場に出た経済学者たち」	中央大学出版部 2002年
「ルポ 日本の縮図に住んでみる」(共著)	日本経済新聞社 2010年
「絆の風土記」(共著)	日本経済新聞社 2012年

ここ30年の世界の動きを振り返ることで、現在の日本の置かれている状況を分析し、今後の日本、とりわけ地域がどう進むべきか、その課題と展望を話したいと思います。

シンポジウム

テーマ

今求められるコミュニティ形成と社会教育のあり方

地域社会に「絆」や「つながり」が満ちていたかつての日本においては、一人ひとりが当事者として社会的役割を果たし、支え合う地域コミュニティがありました。震災によって、地域の絆は見直されていますが、地域の絆を深め、活力ある地域社会を形成するためには「地域コミュニティの場をどう形成するのか」と「どのような人材をどう育成するのか」という2つの視点が必要であると考えます。そしてそこに今後の社会教育の役割が重なります。社会が人を育み、人が社会をつくるという土壌づくりと学習を通じた多様なネットワーク・協働体制を目指す部分が一致するからです。

このシンポジウムでは、「コミュニティ形成」と「人材育成」に関する現状と課題、そして社会教育の今後の方向性について、山梨県の事例をもとに考えていきたいと思えます。

具体的には、以下の3点について協議します。

- 1 地域コミュニティの形成とそれに資する人材育成における現状と課題を示す。
- 2 「コミュニティ形成」と「人材育成」という2つの切り口から、今後の社会教育のあり方、特にNPO法人などの地域の人的資源の活用方策について検討する。
- 3 今後必要とされる新たな社会教育のあり方について、さまざまな視点から考える。

コーディネーター

栗田 真司（山梨大学大学院教授、山梨県社会教育委員）

《略 歴》

岐阜県生まれ。北海道で漁師、僧侶、保育所勤務、筑波大学教員、放送大学客員教員を経て、現在、山梨大学大学院教授、臨床心理カウンセラー。専門分野は、生涯学習論、コミュニケーション心理学、ワークショップ論、博物館教育。



《研究テーマ》

- ・ 地域教育力に関する実践的研究
- ・ 地域社会における子どもの流行現象に関する質的調査研究
- ・ 博物館の教育普及活動と学校教育課程の博学連携事業に関する研究

《委員等》

- ・ 富士の国やまなし第28回国民文化祭企画委員会委員、山梨県男女共同参画審議会委員、山梨県社会教育委員（副議長）、山梨県キャンパスネットやまなし企画運営委員会委員長、山梨県地域教育力・体験活動推進協議会会長、国立教育政策研究所評価規準・評価方法等の研究開発に関する検討委員会委員、国立教育政策研究所全国かつ総合的な学力調査の実施に係る研究指定校企画委員会委員、まちづくり応援プロジェクト主宰など

《論文など》

- ・ 「地域教育力の課題と可能性」『地域を活かし、体験に学ぶ』2005年、pp.1-15.
- ・ 『上高砂まちづくりプロジェクト』を振り返って』『上高砂まちづくりプロジェクトの記録』2010年、pp.1-17. など

《その他》

中学生・高校生の地域活動への参加率の低さが問題となっているが、現在、地域でのいくつかの実践活動を通して、中学生・高校生に立案・計画段階から参加してもらうことの可能性を探っている。大人の考えた計画に従わせるのではなく、計画段階から一緒に関わってもらうことで、中学生・高校生の主体的な参加者は確保できる。これも学びあう社会教育の一つである。

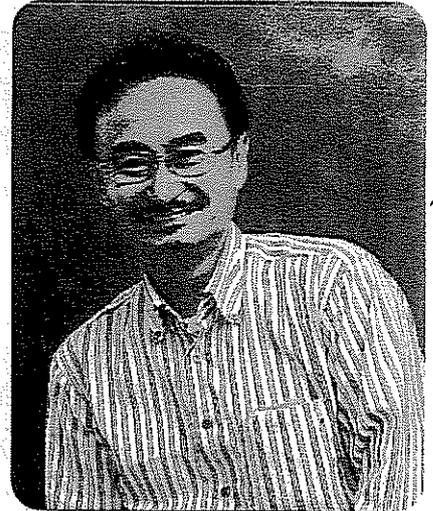
シンポジスト

曾根原 久司（特定非営利活動法人 えがおつなげて代表理事）

◆ 略歴 活動の概略 ◆

NPO法人えがおつなげて代表理事、内閣府地域活性化伝道師、やまなしコミュニティビジネス推進協議会会長、山梨県立農業大学校講師、山梨県総合計画審議会委員などを務める。

長野県出身。東京での銀行の経営コンサルタントを通して日本の未来に危機を感じ、その救済モデルを創造すべく、1995年、東京から山梨の農村地域へ移住。農業・林業をしながら、都市と農村の共生社会の実現を目指すNPO法人えがおつなげてを2001年設立。



◆ 委員等 ◆

山梨大学客員准教授、山梨県教育委員会地域教育力・体験活動推進協議会委員、経済産業省ソーシャルビジネス研究会委員、農林水産省農地・水・環境の資源保全施策検討会、及び第三者委員会委員等

◆ 主な表彰 ◆

農林水産省 都市と農山漁村の共生対流オーライニッポン大賞受賞 経済産業省 ソーシャルビジネス55選に選定 毎日新聞 グリーンツーリズム大賞優秀賞受賞 世界の社会起業家を繋ぐSEOY日本プログラムのファイナリストに選定等

◆ 主な著書 ◆

日本の田舎は宝の山 農村起業のすすめ（日本経済新聞出版社）

農村起業家になる 地域資源を宝に変える6つの鉄則（日本経済新聞出版社）



シンポジスト

米山 けい子（特定非営利活動法人 フードバンク山梨理事長）

◆ 略 歴 ◆

前コープ山梨理事長、フードバンク山梨理事長

◆ 活動の概略 ◆

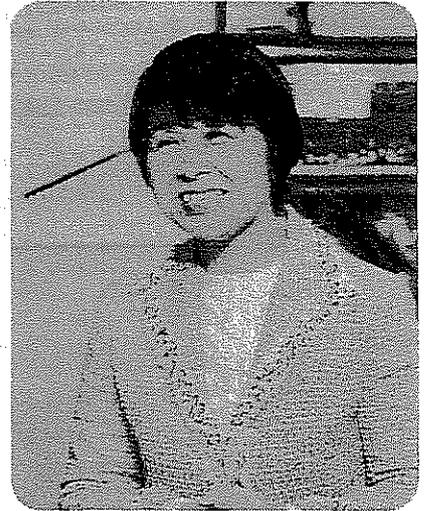
- ・フードバンク活動
企業、農家、市民から食品ロス等を寄贈いただき、無償で児童養護施設、障害者施設、生活困窮者に配布する。
- ・貧困に苦しむ方々に寄り添い、真の自立に向けて支援する。

◆ 委員等 ◆

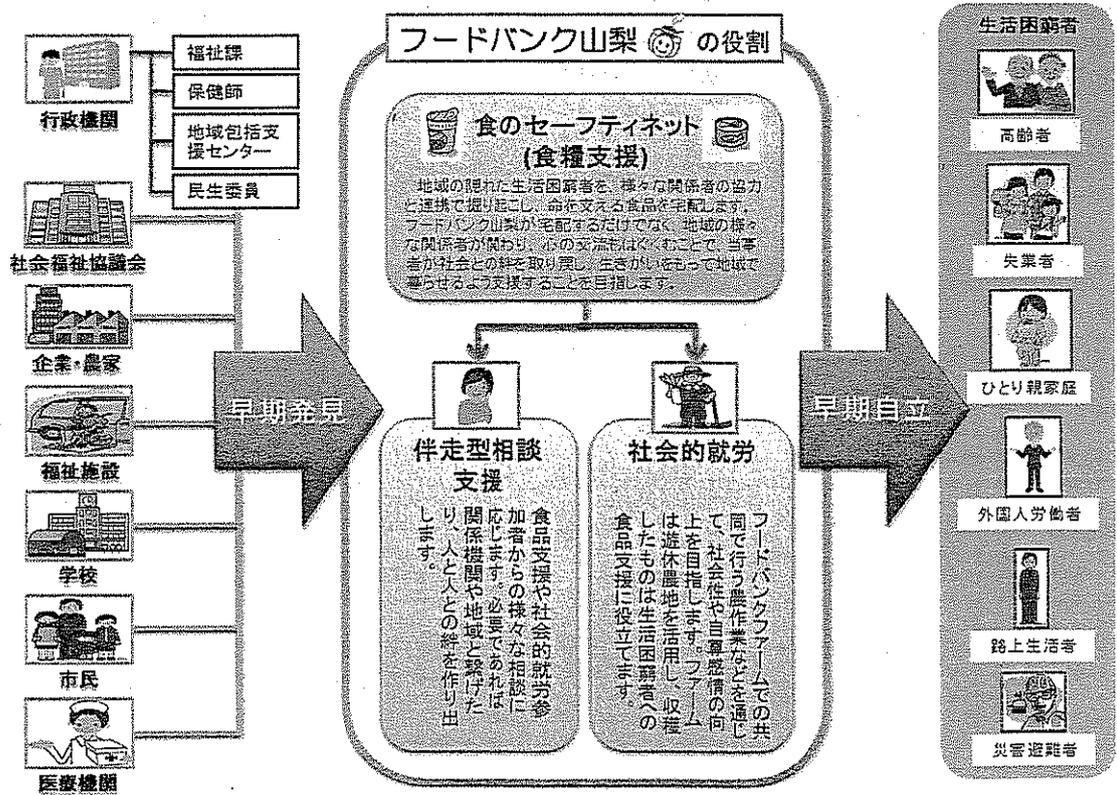
- ・山梨県ボランティアセンター 理事
- ・元 山梨県社会教育委員

◆ 話題提供予定の主な内容 ◆

企業・農家・市民・学校・病院・行政等、地域の多くのステークホルダーによって未来を創り出していく新たな活動……新しい公共について



フードバンク山梨が目指す第2のセーフティネット



シンポジスト

岸本 千恵(特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会事務局長)

◆ 略 歴 ◆

1977年(昭和52年)4月1日より、ボランティア・NPOの中間支援組織である「山梨県ボランティア協会」に勤務し現在に至る。

◆ 活動の概略 ◆

- ① ボランティア・NPO活動の拠点・苗場である「山梨県ボランティア・NPOセンター」の運営
- ② ボランティア・NPO活動の情報収集・提供、交流や学習の場の提供、相談斡旋など多様で柔軟なコーディネートとネットワークにより、ボランティア・NPOの誕生や育ちと自立を支援する機能の拡充を図る。
- ③ 行政と民間が連携した公私協働による県民ボランティア運動を推進し、ボランティア精神の涵養と人づくりをする。

◆ ボランティア活動 ◆

- ① 甲府市千塚地区ボランティアの会「ぽけっと」【防災マップ作り、地区町民運動会にて福祉施設の作品展示・PRコーナーの設置運営】
- ② 災害・防災ボランティアこうふ【帰宅困難者体験ウォーク、防災啓発活動、他団体とのネットワークづくり】

◆ 委員等 ◆

- ・山梨県公益認定等審議会委員
- ・山梨県高等学校審議会委員
- ・公益財団法人山梨鈴木助成事業財団評議員
- ・公益財団法人長田ふるさと財団運営委員
- ・山梨県図書館協議会委員
- ・山梨県総合評価委員会委員
- ・山梨県立介護実習普及センター運営委員
- ・公益財団法人みどり奨学会理事
- ・公益財団法人やまなし文化学習協会評議員

◆ 話題提供予定の主な内容 ◆

社会教育活動の検証

- ① 組織運営で、固定化・マンネリ化していないか。
- ② 社会や地域のニーズにあった学習や活動をしているか。
- ③ 自主的・主体的・実践的な取り組みとなっているか。
- ④ 社会教育推進者の新しい人材を得られているか。

1. 指導者の捉え方

- ① 今一番必要とされる指導者は、上からの目線ではなく、地域で「他者に学びともに生きる力」を見いだせる同じ目線で考え行動する社会「協育・響育・共育・郷育」をめざすボランティアの心をもった人ではないかと考える。
- ② 地域の多様な人材を活かし、つなげるコーディネーターの役割を担える人が必要である。

2. 人と人がつながり、協働・協創のまちづくりをめざして「耕そう まこう 育てよう」

- ① 縦糸(行政)と横糸(民間)の織りなすパートナーシップによる協働・協創
- ② 多様な活動をしている「ボランティアな市民活動団体」が出会い、知りあい、情報交換・交流する場づくり・・・「必要な手を結び合うゆるやかなネットワークづくり」
- ③ 地域に根ざした新しい公共の創出
- ④ 地域で孤立化しない人と人とが関わり合い、支え合う新しいコミュニティづくりと人づくり

